

手と手と手

岡山発 国際貢献

「たたくさんの人が亡くなった。僕は津波を知らなかった。津波と地震。アチェは悪いことばかりして、平和じゃなかったから罰が当たった。神さまが怒ったんだ。僕はもう二度と怒らないでとお願いするんだ」

十二歳の男の子ズーム・フアミイが友達の前で自作の歌を披露していた。タイトルは「Tsunami」。津波の後、家族とはぐれた。「助けて」と叫びながら、道端に一人立っていた自分を思い出して作ったという。

ここはインドネシア・アチェ州（スマトラ島）の州都バンダアチエ郊外。被災者が暮らす一角のバラック。国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市櫛津）が行っている復興支援プロジェクトの一幕だ。

医療と平和

復興支援は、医療関係にとどまらない。心に傷を負った子どもたちのために、詩や音楽、絵画など情操教育を重視しているのだ。広い意味での平和教育。代表の菅波茂五丸は、「医療と平和」の言葉を使う。

無色

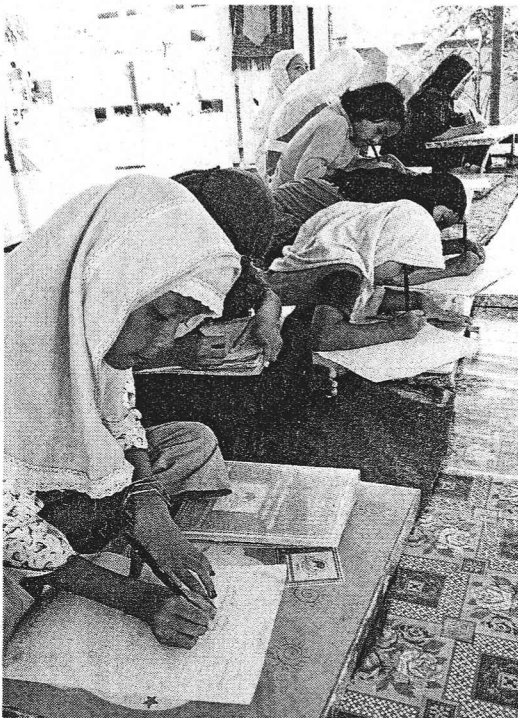
AMDAは、政治的に無色。国益や営利目的を背負っていないわけでもない。純粋な人道援助団体として活動している。そのことが、重要なのだ。紛争当事者双方に格差のない医療を提供。双方から信頼を得

ることで、停戦を促し、和平実現へ貢献しようという試みから、それは始まった。一九九九年のソコボ紛争では、対立するアルバニア系住民とセルビア系住民に医療支援した。同時期、内戦下のアフガニスタンでは、タリバン政権、北部同盟双方と医療協力を結び、すべての子どもが予防接種

を受けるまで停戦するよう呼び掛けた。インドネシア同様スマトラ沖地震の津波被災地のスリランカでは、民族紛争が続いているが、二〇〇三年から敵対関係を度外視して北部、南部、東部の三地域で小学校の巡回診療などを続けている。

南アチエ県

こいつら支援を医療と平和プロジェクトと呼ぶ。新年からは、アチェ州でも本格的に取り組むことになった。バンダアチエ現地事業統括の金山夏子（二丸）を中心に、南アチエ県の六村が対象。六村は自由アチエ運動（GAM）と国軍の衝突が、被災を機に和平がなるまで続いた場所だ。



バラックで勉強する子どもたち。傷ついた心を癒やすのも復興支援の役目＝インドネシア・バンダアチエ

各地域で「健康新聞」を発行し配布。多民族に対応して英語、シンハラ語、タミル語で、衛生環境の改善や感染症予防、平和のメッセージなどを掲載した。身近な情報を共有することで、互いの対立感を弱め、少しずつ同じ国の人間という意識を持つてほしい。スタッフは願いを込める。信頼の効果はスマトラ沖地震後に表れた。北東部トリンコマリ州での感染症予防の衛生教育をAMDAがすべて任されているの

情報共有し対立弱める

津波の被災。生活も希望も奪われた状態を癒やしていくのも、医療と平和だ。

(敬称略)